四国の国立5大学によるe-Learning連携

林敏浩（香川大学）

知プラｅ

検索

本取り組みは文部科学省　国立大学改革強化推進補助金事業「四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業」（平成24～29年度）によるものである。

知プラe事業の目的とインフラ整備

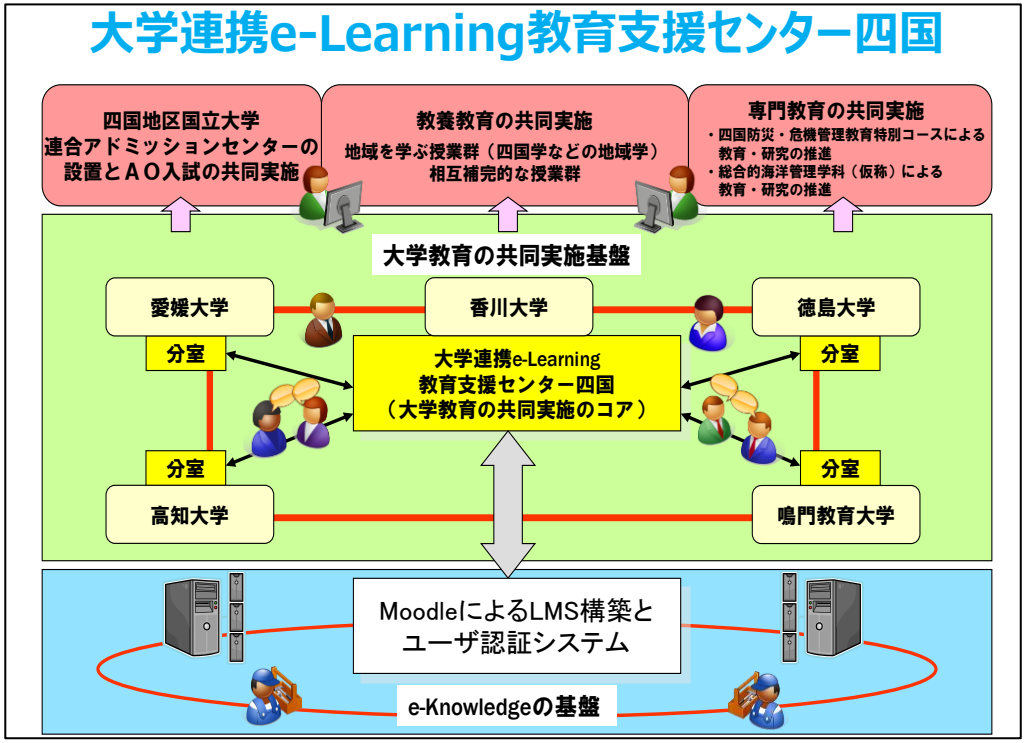
四国5大学連携による知のプラットフォーム形成事業として、四国の国立5大学は相互に連携し、各大学のe-Learning基盤を活用して「四国地区における5国立大学連携構想」の中の大学教育を共同実施している（以下、本事業を「知プラe」と呼ぶ）

知プラe事業の目的

四国の５国立大学法人が相互に連携し、それぞれの人材や得意とする教育・研究分野を共有・補完することで、教育の質の向上を図る.

事業目的達成のためのインフラ整備

大学連携e-Learning教育支援センター四国及び分室を設置したとともに、e-Learningシステム基盤を構築した.



知プラe事業の到達目標

1. 大学教育を共同実施するための仕組みを構築

- 大学ごとに異なる教育システム（履修スケジュール，シラバス等）への対応
- 非常勤講師任用等に係る事務手続きの簡素化
- 共同実施科目（50科目）の開講による本仕組みの検証

2. 非同期型e-Learning授業の質保証の仕組みを構築

- 質保証に係るガイドラインの策定とチェック体制の構築
- 学生と教員の双方向性の実現

3. コンテンツ制作に係る業務省力化と視聴確認体制の構築

- コンテンツの品質に係るガイドラインの策定とチェック体制の構築
- 第三者著作物利用のための事務手続きの定型化

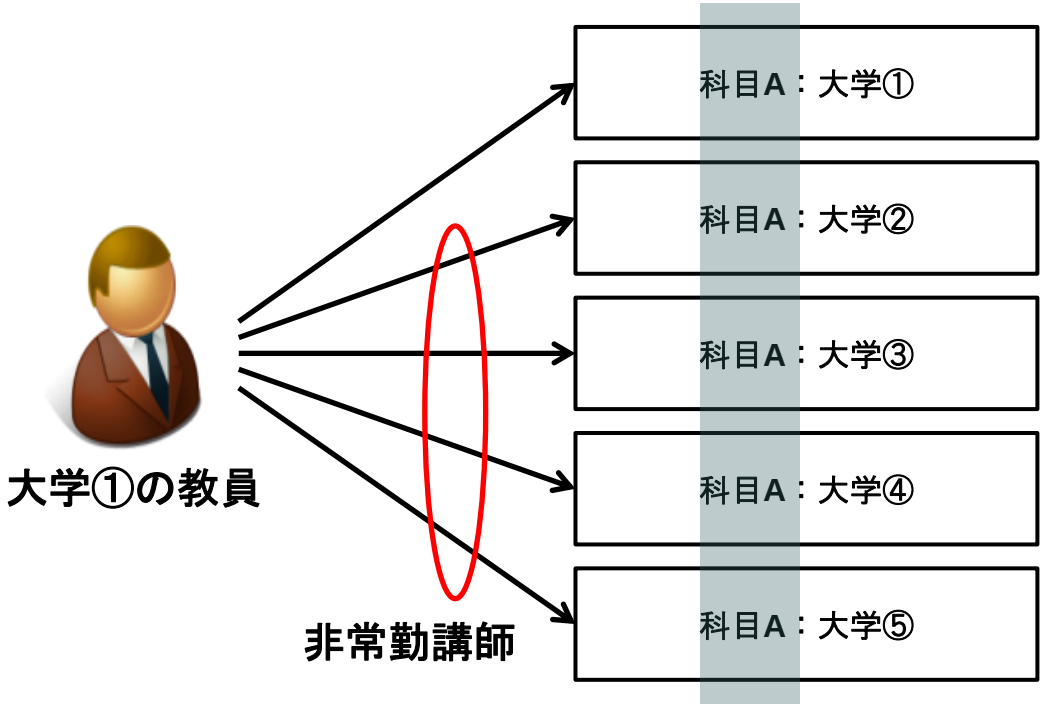
4. 継続的な運用のための体制構築

- 補助金期間終了後の運用体制の整備

共同実施の概要と利点

平成27年度以降の本事業で提供するe-Learning科目については、5大学において**同一の科目名で共同開講**し、各大学の様式でシラバスを作成するものとする.
（大学間申合せ　平成26年9月4日施行）

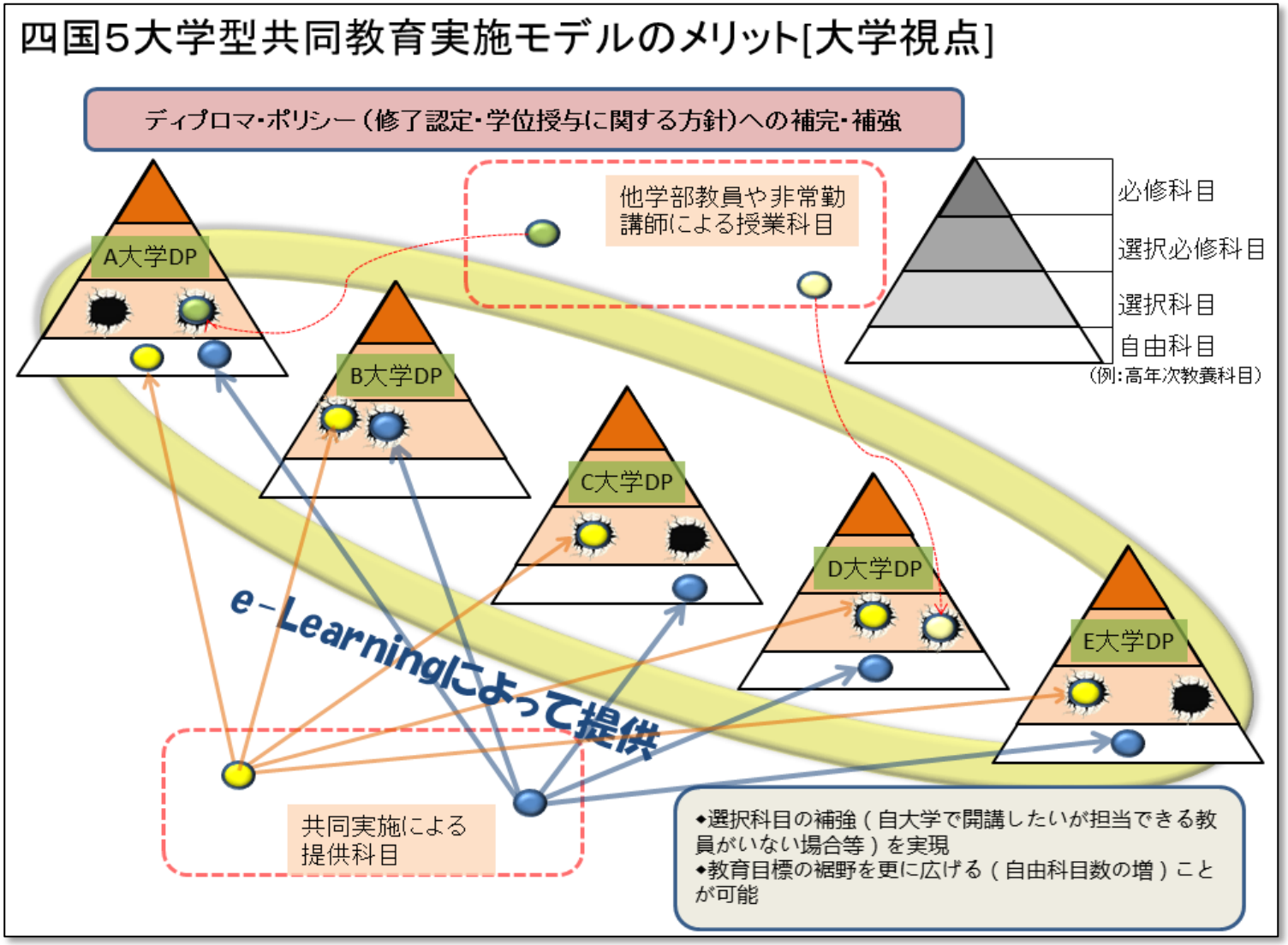
同一の科目名で共同開講



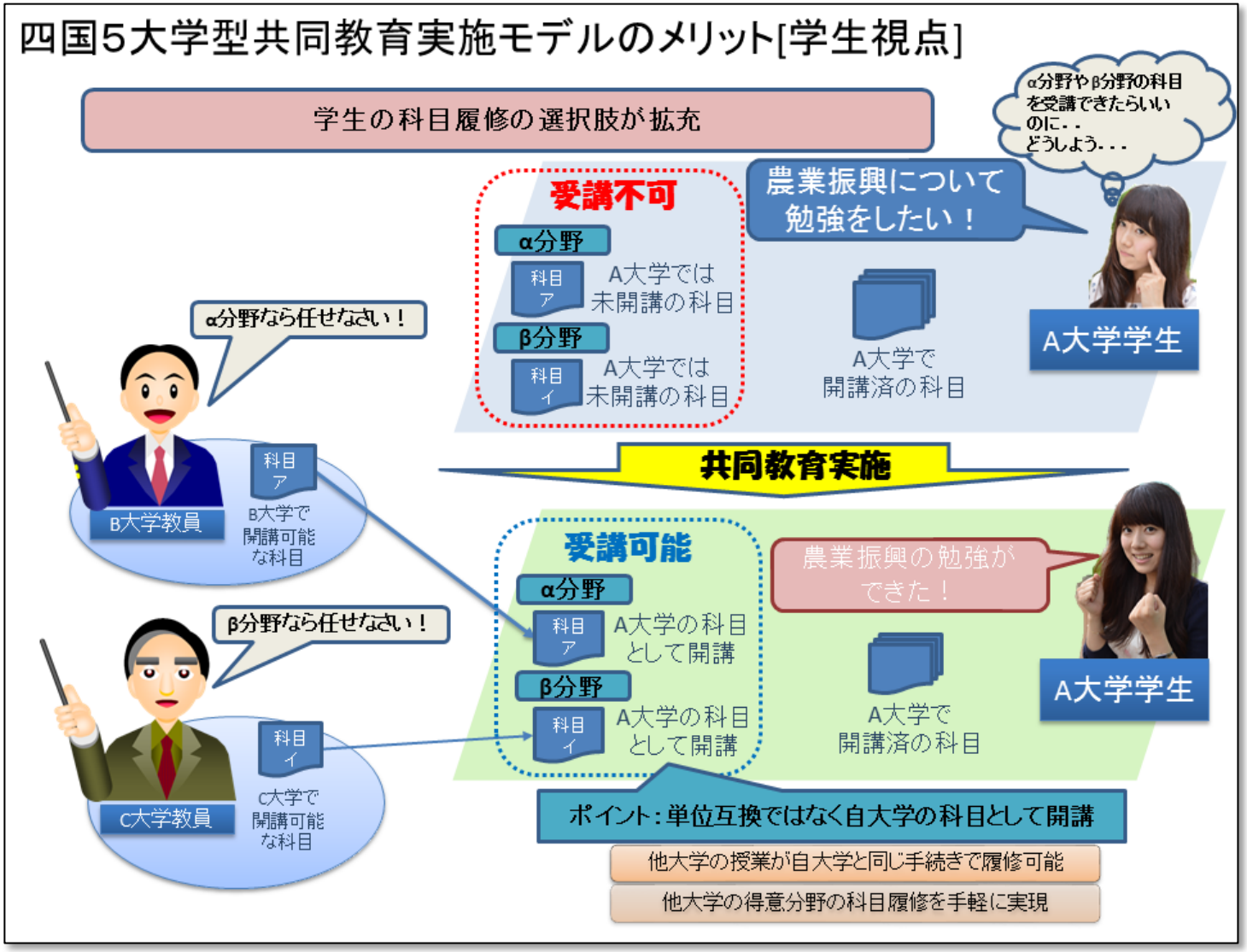
共同実施の利点

- ディプロマポリシーの補完
- 科目選択の幅の拡充
- 履修手続きの簡素化（単位互換制度と比較して）

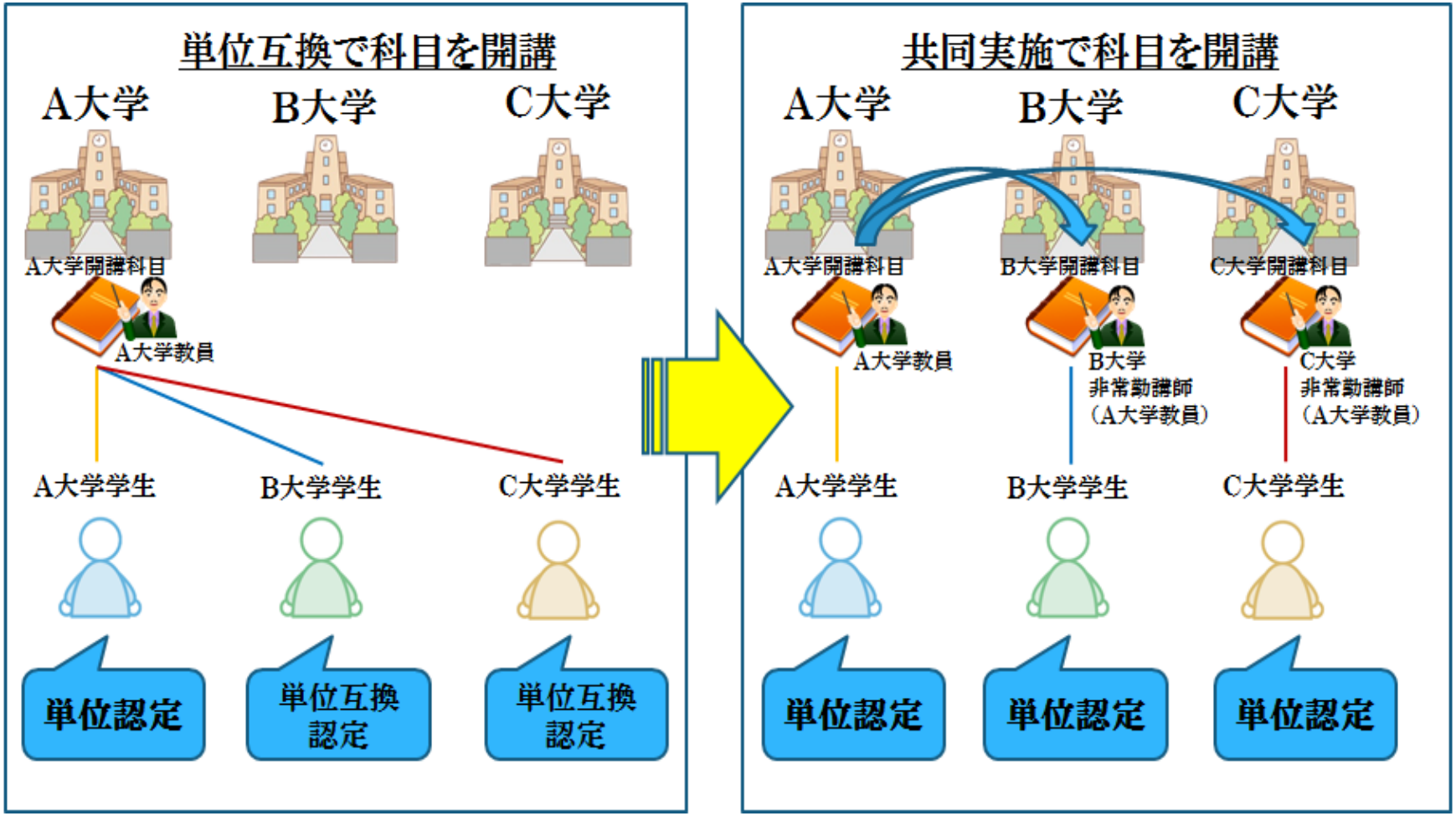
大学サイドからの共同実施の利点



学生視点からの共同実施の利点



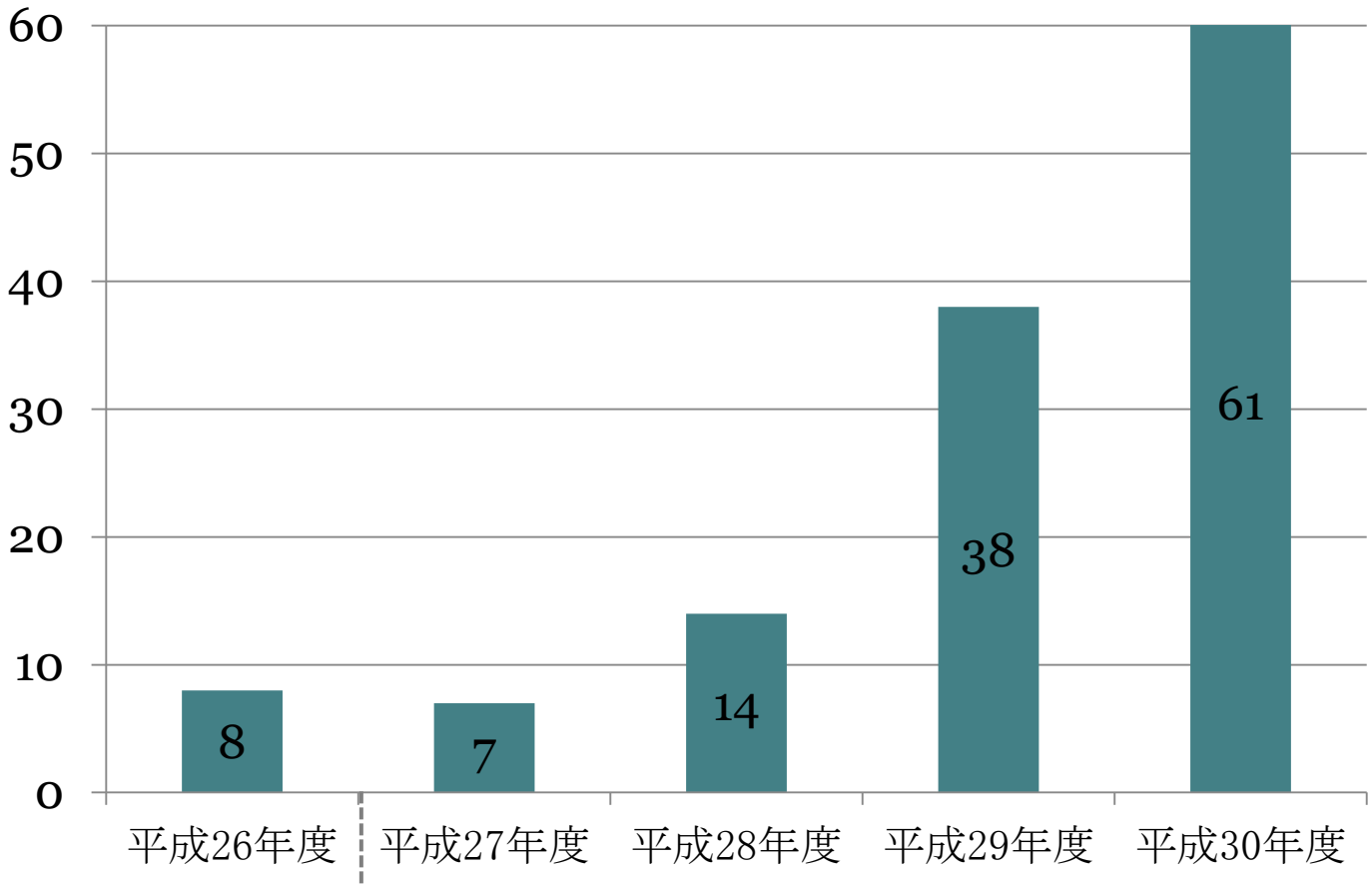
学生視点からの共同実施の利点



課題別成果物の例

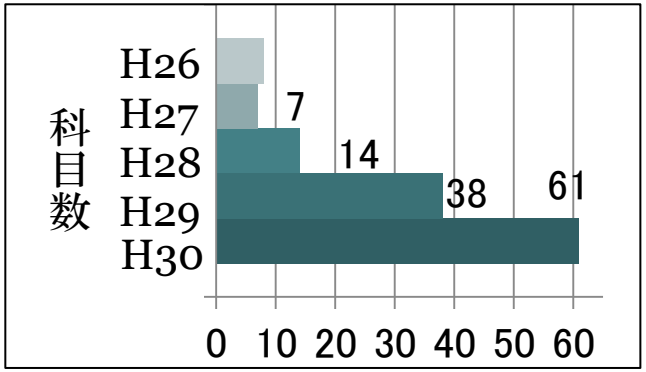
課題	検討項目	成果物
共同教育実施モデルの運用	履修手続き、成績入力方法、シラバス等、5大学で異なる教育システムに対応した仕組みの整備	学修期間の弾力的運用 シラバス情報収集フォーマット 成績評価早見表 非常勤講師任用等事務手続きの簡素化 61科目の共同開講（詳細は後述）
教育の質保証	授業設計、授業運用、継続的な授業改善プロセス等に関する教育の質保証の仕組みの整備	オンライン授業設計ガイドライン オンライン授業運用ガイドライン 授業改善アンケート オンライン授業設計ガイドライン準拠確認シート
コンテンツ制作	著作権処理、コンテンツ開発等、コンテンツの共同開発体制の整備	オンライン授業のための著作権処理ハンドブック 譲渡証書 コンテンツ開発ガイドライン コースコンテンツ確認シート
継続的運用体制の整備	補助金期間終了後の組織や規程等の整備	四国におけるe-Knowledgeを基盤とした大学間連携による大学教育の共同実施事業に関する申合せ、ほかを改訂

年度別開講科目数の推移

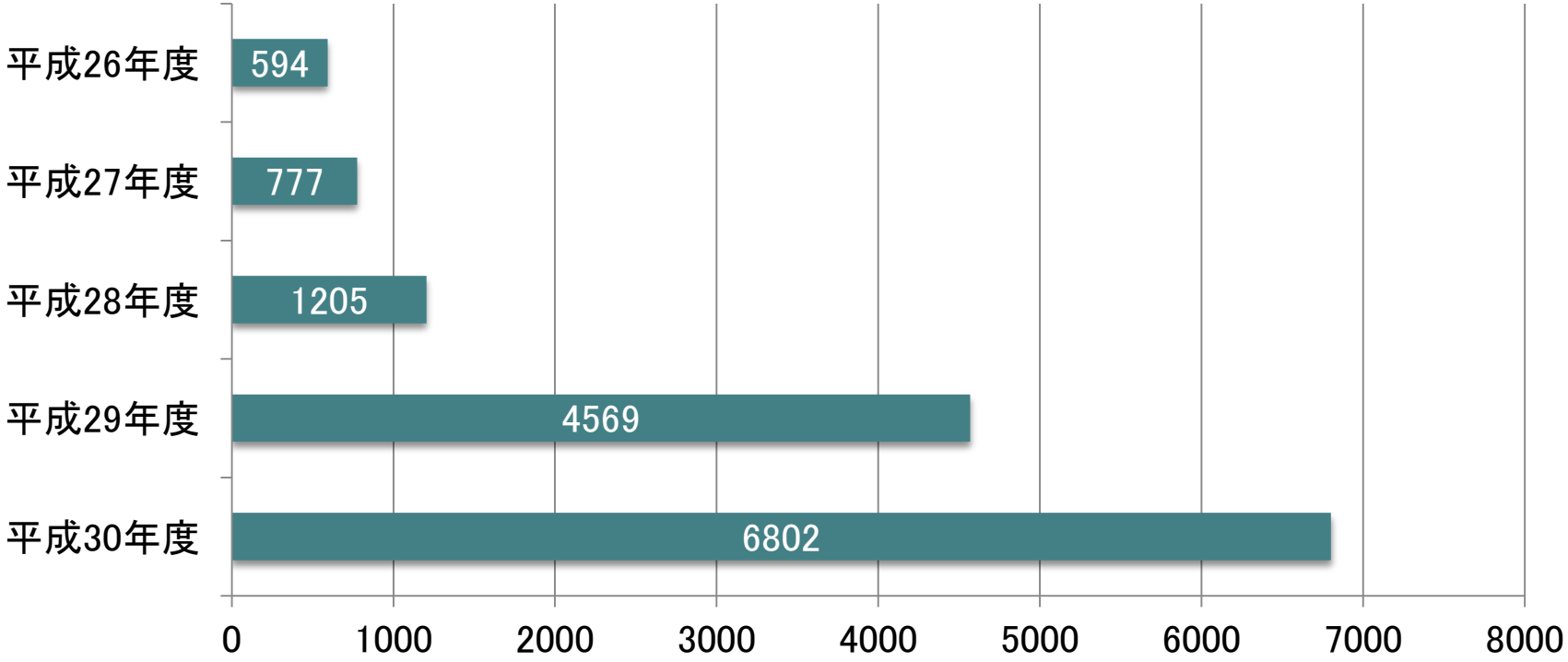


単位互換　共同開講開始

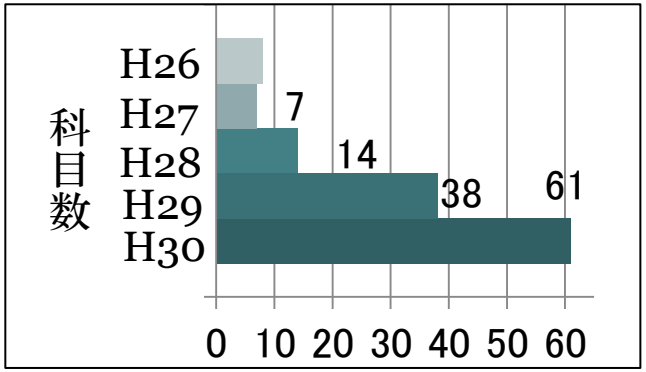
共同実施の成果



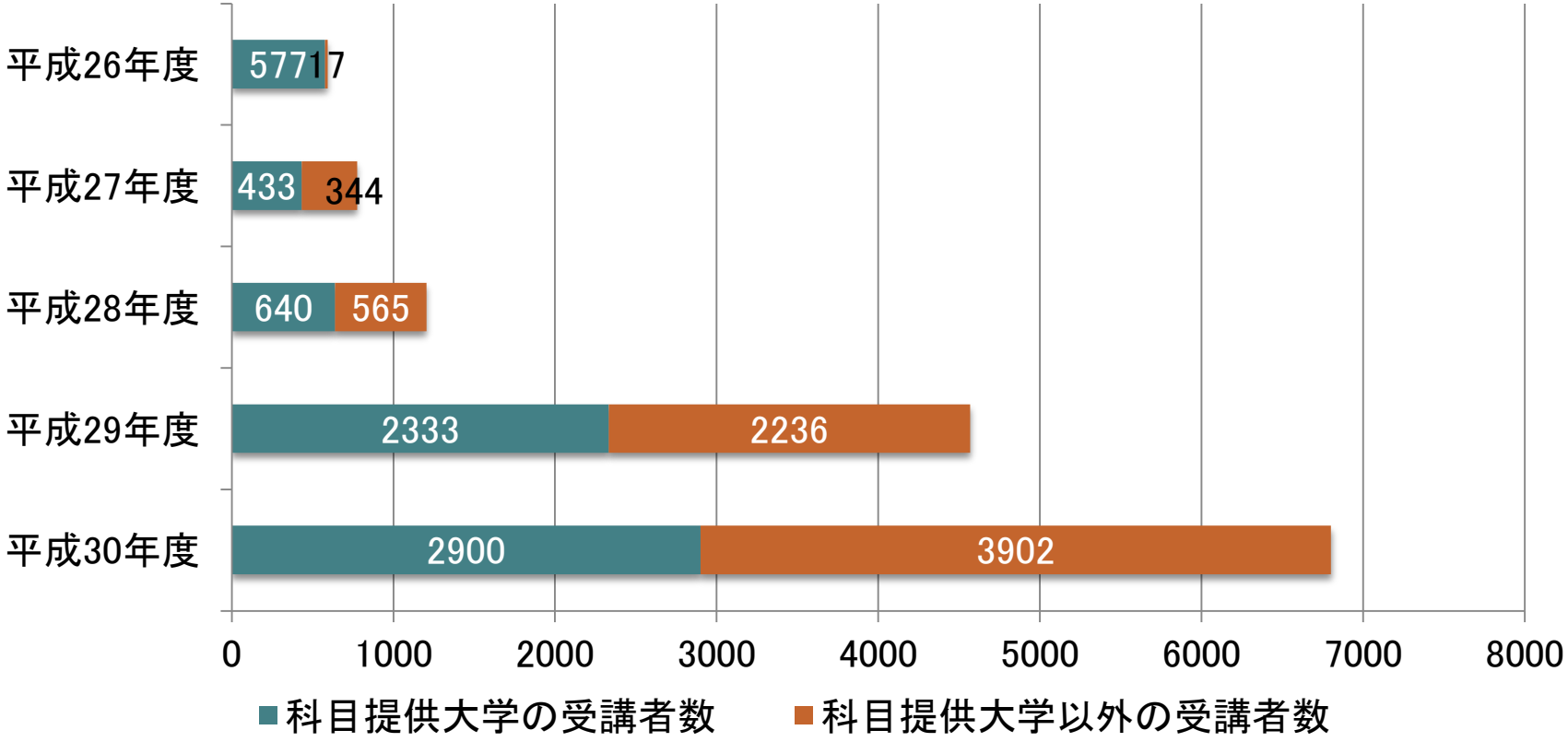
5大学全体の履修者数の推移



共同実施の成果



履修者数の内訳



まとめ

知プラe事業期間内で得られた主な成果

1. 共同教育実施モデルの構築と運用

2. 非同期型e-Learning授業における教育の質保証

3. 非同期型e-Learning授業コンテンツ制作に係る著作権処理

平成30年度以降（補助金終了後）について

1. 共同教育実施モデルを運用するための体制の維持

2. 知プラe科目の共同開講の継続